

彗星の撮影は、さまざまな「相手」のと勝負です。今回のレモン彗星のように「宵の明星型の彗星」の場合、例えば以下のような「相手」が挙げられます。

- (1) ロケーション；西の空ができるだけ地平線まで開けた場所。地平高度10度以内に樹木や建物があるとNG。
- (2) 街明かりや月明；恒星とちがって彗星は「淡い光芒状の天体」なので、できるだけ暗い空が良い。
- (3) 天候；月の観測は薄曇りでも可能だが、彗星は「巻層雲」のような薄い雲でもNG。
- (4) シーイング；大気の透明度やゆらぎの指標。これも彗星観測には大きく影響する。
- (5) 時間；尾が伸びた彗星は、太陽を追いかけるように沈んでしまうので、日没後1～2時間しか見えない。

職場は東京都文京区にあり、西には池袋や新宿の街明かりがあつて、ロケーション的には最悪です。幸い、文教育学部1号館は8階建てで、屋上はどの方向も遮るものがありません。10月30日は、前々日・前日より天気もシーイングも良好で、観測には期待できる日でした。



写真を見ると、彗星の尾の中央部に、ひときわ明るい「輝線」が写っています。これは「イオン・ダスト(イオンの尾)」で、周囲の白い尾が「ダスト・テイル(塵の尾)」です。本来この2種類の尾は、離れて見えるのですが、今回撮影に使った機材は非常に狭い範囲しか撮影できないので、彗星のコマ(核)に近い部分しか写っていないのです。もっと広角で撮影すると、2種類の尾は離れて写るのですが、基部は重なって見えるというわけです。

ダスト・テイルよりイオン・テイルのほうがずっと淡く、写真には写りにくいのですが、も東京の都心部で、これだけ鮮明に写ることに驚きました。しかしまだ満足のいく写真とは言えません。やはりもっと暗い空のロケーションで撮影したいと思いました。